

北上市総合計画 2021～2030 令和4年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和3年度）

基本方針	6.健康と安心の地域づくりの推進
基本施策	6-1.自分らしい生き方を支える健康寿命の延伸
関連するプロジェクト	6.いきいき元気ライフプロジェクト

市民の主体的な健康づくりと生きがいづくりを支援するため、活発な地域活動の継続と健康増進の気運をさらに高めるとともに、最新技術を活かした医療・介護を提供する取組の推進、適切な感染症対応や持続可能な社会保障制度の運営を図ります。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価	B
------	----------

R4事後	13
------	-----------

No.	担当部署等	プロジェクト	推進方針	成果指標	達成状況(対象:R3) (上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの)	達成状況 評価	達成状況分析(上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの)		今後の方向性 (◇:R4に着手予定・着手済み ◆:R5以降の着手を検討)
							内部要因	外部要因	
1	福祉部	生活困窮者の健康維持への支援	レセプトデータ分析により、適切でない受診状況にある被保護者を確実に抽出し、関係機関と連携し頻回受診や複雑な転院、重複受診をしないよう指導する。	①	要指導対象者割合は、期待値を達成している。	A	生活保護世帯の受診について適切に指導助言を行っている。	生活保護世帯の減少に比例し医療についての支援対象者も減少している。	◇今後も生活保護世帯の受診について適切な指導助言を継続して行う。
2	福祉部	在宅医療等の推進と医療・介護連携の強化	在宅医療を支える資源の充実と資源間ネットワークの構築を進めるとともに、病院入退院時における医療・介護の多職種連携の円滑化を進め、スムーズな在宅療養生活への移行を進めるとともに、遠隔診療を活用した地域における医療環境の充実を図る。	②	※指標②の数値は3年毎の介護保険計画の際のアンケート調査で確定するため令和4年度中に確定のため未記入。 厚生労働省の地域包括ケア「見える化システム」の実績値により、在宅療養を支える医師や介護職等、多職種の連携が進んでいる。 在宅医療介護連携推進協議会 2回 在宅医療介護連携支援センターの設置 1か所 在宅医療介護連携支援センター相談対応件数 122件	A	在宅医療介護連携推進事業における事業評価をR3に実施し、順調に進んでいる。 センター設置から6年経過し、窓口の認知度が向上している。また職員の相談対応能力も向上している。	在宅医を支える、岩手県医師会委託事業の「在宅待機支援事業」の実績が順調に推移し、在宅医の不在の際のサポート体制が構築されている。 コロナ感染拡大により、協議会は1回中止とした。	◇入退院支援ハンドブックを改訂し、連携を更にスムーズに進める体制を作る。
3	福祉部	フレイル予防の推進	フレイルへの理解を広め、「身体的な衰え」「精神的・心理的な衰え」「社会的な衰え」の進行を予防する取り組みを推進する。	③	継続的にいきいき百歳体操に取り組むグループ数は、68グループであり、R2より増加しているが、期待値を下回っている。 hoKkoまちの保健室事業の新設...1か所 ボールウォーキングの導入開始...指導者養成講座1回、 ボールウォーキング教室4回	B	新型コロナウイルスの影響により集合による活動ができなくなったため、『きたかみいきいき通信』『いきいき応援カレンダー』を毎月発行し、セルフケアの促進に取り組んだ。 フレイル予防・健康づくりの場として、「まちの保健室事業」を開始した。いきいき百歳体操専任の職員をボールウォーキングのインストラクターとして養成し、屋外で高齢者が安全に運動するためのコンテンツを増やした。	新型コロナウイルスの影響により、集合による活動ができなくなったため、『きたかみいきいき通信』『いきいき応援カレンダー』を毎月発行し、セルフケアの促進に取り組んだ。 新型コロナウイルスの影響により、地域活動の機会が減少していることから、不足している活動を市主催の事業で補うことにより、フレイル予防の機会の維持に取り組んだ。	◇新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、新たな体操グループの立上げ支援に取り組む。 ◇誰でも気軽に運動や健康相談ができる場として、通年で「hoKko まちの保健室事業」を実施する。 ◇フレイルの全段階であるロコモティブシンドローム対策として、「ロコトレ教室」を新設する。 ◇個々の動機づけ支援を目的として、セルフケアツールを充実させる。
4	健康こども部	健康づくりへの支援	健康指導を充実・強化するほか、健康福祉ポイントの導入などにより、生活習慣病予防や介護予防の意識啓発を進め、重症化予防による健康寿命の延伸を目指す。	④⑥⑦	健康福祉ポイントの付与ポイントの確定はR4年度以降である。 特定健診受診率は、R2より上昇したが、期待値を下回っている。 疾病の早期発見早期治療に繋げるため、国民健康保険被保険者191人に人間ドック費用の一部を補助した。	C	特定健診は、対象者12,398人に対して4,872人に実施したが受診率は伸び悩んだ。 特定健康診査の対象外となる40歳未満の者や特定健康診査項目以外の詳細な検査を望む者に対して人間ドックの費用助成を行うことにより疾病の早期発見・早期治療を後押ししている。	新型コロナウイルス感染症の流行による受診控えが考えられる。 人間ドック助成は、被用者保険でも同様に実施されている。	◇5月Google広告、6月広報誌掲載等により、参加者の拡大を図る ◇継続的なイベントの開催及びウォーキングコースの設定により、アクティブ参加者の拡大を図った。 ◇継続して、国民健康保険被保険者に対する人間ドック受診料助成を実施していく。 ◇引き続き安心して健診を受診できる環境を行っていく
5	健康こども部	口腔の健康維持、向上のための支援	歯の喪失を防ぐため、成人歯科検診の機会を通して口腔衛生指導を行うとともに、健康ポイントの対象事業に組みこむなど、受診意欲を高める工夫をする。	⑤	成人歯科検診の受診率は昨年度より減少し、期待値を下回っている。	C	毎年度対象者宛の通知、広報、市ホームページを通じ周知を行っているが、反応が少ない。	新型コロナウイルス感染症の流行による受診控えが考えられる。	◇9月に受診勧奨通知を行う ◇未受診者宛に、再度受診案内を送付し再周知する ◇通知の文面を工夫し、分かりやすく受診しやすい環境を作る ◇10月の受診勧奨についてHPIに掲載し周知を図る
6	健康こども部	通院困難者への医療の提供支援	移動診療車、オンライン診療の活用により、どの地区に居住していても一定水準以上の医療が受けられる体制を医療機関と協働で構築する。	未設定	アクションプランの見直しによる令和4年度追加項目				

